

佐賀市赤松町龍泰寺小路二二一

塚原嘉一郎殿

正披



27



秋漸くさくさとなり、蓋し健勝美繁に到りぬ。傳を兼て  
 出たづぬの位友の件、毛後教養宮谷氏を以て書つてもうい  
 り、同家としてハア、あ之様には何とあし、持ておれり  
 今の所形勢觀望の態度を有し、幸先着多の執ハ是に  
 いらく。石橋氏とは屬し合見、教養宮谷氏の立案  
 を佳しや、愛、あはいろくあるが、今一度よく老見の  
 意思を確うめ、出た談の上的確おあを言てたいとの  
 うす。老見今度はいつ頃上京せられぬや、出豫定  
 有しつて、打返一報、おあぬ。  
 尚もたおの石橋氏来訪、満後お撥老の化を引

豫め政治経済研究所の理事長を以て、伊藤武雄  
 氏といふ人、老見の忠告を聞き、その支那より他を控け  
 るる業の関照をせよたい由り、是をた上京を行つ  
 と、老見の由、是れ<sup>并</sup>は合意、おあぬ。  
 今度上京の由あり、都合むハハを講談の中込みあ  
 り、阪神までついで行つて、甚はるかと思ひ、おあぬ。  
 先ハお用を、おあぬ

十月十日

堀原 豊見

研 北

源 太

白と 其